

～地域医療研修を終えて～

豊橋市民病院 研修医 2 年目

新城市民病院での 4 週間にわたる地域医療研修では、主に総合診療科として外来診療や救急初期対応をさせて頂きました。特に初診外来をさせて頂く中で、普段の救急外来での診療との大きな違いを感じました。これまでの約二年間、豊橋市民病院の救急外来で様々な主訴の患者さんを診てきましたが、緊急病態の除外もしくは診断のために問診や身体診察以上にバイタルサイン、ABC 評価、各種検査所見に重きを置いた診療を行ってきました。しかし初診外来では、一つの主訴に対して丁寧に問診や身体診察をとるとともに鑑別を絞るために更なる問診を重ねていくという、総合診療の真髄ともいえる診療のあり方を肌で感じることができました。ありきたりな未治療の高血圧の薬物療法開始の仕方など、本当に基本的なことも考えたことが無かったのだと実感しました。当初は慣れずに苦労することもありましたが、予診をとり終わる度に担当の先生からフィードバックを受け、更に夕方のカンファレンスでも他の先生方からもフィードバックを受けることができ、おかげで日々成長することができました。現在 COVID-19 が猛威を振るっているため、朝の勉強会は行われていませんでしたが、日々の振り返りで自分には気づくことが出来ない新たな視点や、切り口を知ることが出来て、日々の診療の向上心につながりました。問診、身体診察からより適確な検査前確率を算出するという診療姿勢を、来年からの診療にぜひとも生かしていきたいと思います。

また、週に一回の内科カンファレンスでは医師に加えて看護師、理学療法士、MSW といった他職種の方々とディスカッションを通して、患者さんの生活背景も踏まえた上で退院後の生活を考えていくという退院支援の実態を目の当たりにすることができました。さらに MSW の方に実際に退院後の施設や利用可能なサービスに関するお話をさせて頂きましたが、研修医という立場ではなかなか知る機会のなかった知識で新鮮でした。今後主治医という立場に立つ場合に、このような制度を理解し、うまく活用していくことが重要だと改めて実感しました。

Up to date 勉強会、EBM 勉強会を通して常に最新の知識を取り入れていらっしゃる先生方の姿を見て、移り変わりの激しい医療界において常に最新の情報を習得し、より良い医療を患者さんに提供することが医師に求められていることだと再認識させられました。名郷先生の勉強会は個人的にすごく印象的で、何かを知りたいと思った時に直ぐに調べられるように日々慣れが必要だと痛感しました。何か目的を持って、論文を読むのと、課題の一つとして論文を読むのでは意味が違い、診療に取り入れるための論文、そして知識であると実感しました。この二年間でローテート科の課題として様々な論文を読みましたが、何一つとして覚えていません。診療に役立てるために論文が存在し、また我々も読むのだということ学びました。

4週間の地域医療研修では、初めて訪れる土地、初めての病院ということで当初は不安ばかりでしたが、優しく熱心な先生方、温かいスタッフ方のおかげで、本当に充実したものとなりました。短い間ではありましたが、本当にありがとうございました。